事業所における児童発達支援自己評価（公表）

公表：平成30年3月26日　　事業所名　留萌中部地域子ども発達支援センター

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	②	職員配置数は適切である	○			
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また､障害の特定に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・古い建物を活用しているため補修しながら、よりより環境づくりを目指している。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・建物が古いので、寒さ対策が必要	
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		・今後公開していく。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善に繋げている	○		・個別で保護者と話す機会を作っている。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を事業所の会報やホームページ等で公		○	・今後公開していく。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務3改善に繋げている	○		・専門支援により、療育に対する評価を実施。	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・外部研修は充実している。年に数回専門支援による研修実施	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		・定期的にニーズを聞き、計画を作成している。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・心理士による発達評価。事業所でも発達評価を実施。	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・年度始め、月始めに大まかに立案し、当日細かに話し合う。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・子ども達の支援ニーズに合わせて行っている。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○			
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日に行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・打ち合わせは必ず行っている。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・当日・翌日には職員間で共通理解を図っている。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・日誌をつけ振り返りを行う。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		・定期的に保護者と面談を行っている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携、関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・担当保育士が参加し、子どもの状況を提供している。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		・年間の予定、支援会議等出来る限り連携を行っている。	
	㉓	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○	・現在対象児がいないため	
	㉔	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○	・現在対象児がいないため	
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・年に１度、評価後の支援会議などで情報共有を図っている	
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・母子の不安が共に大きい時には思いに寄り添い対策を一緒に考えている。	
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・研修等ある場合には参加している。	
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○			
	㉙	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者に伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・活動内容・子どもの様子、課題の共通理解を図っている。	
	㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	○		・母子の不安が共に大きい時には思いに寄り添い対応策を一緒に考えている。	
保護者への説明責任等	㉜	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・年度当初、契約時に説明。	
	㉝	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		・年4回実施。	
	㉞	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・出来る限り時間をとり説明。専門支援委員に依頼することもある。	
	㉟	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・場所を提供。活動が開始されたばかりだが、希望があれば応援していきたい。	
	㊱	子どもや保護者からの相談や受入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・苦情処理簿を設置している。	
	㊲	定期的に会報等を発行し､活動概要や行事予定､連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・月1回、活動内容や行事予定を保護者・本児にお知らせしている。	
	㊳	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	㊴	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	㊵	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		
	㊶	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施	○		・事業所内に掲示している。	
	㊷	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○	・今後様々な事を想定して行っていきたいと考えている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	㊸	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○			
	㊹	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	・現在対象児がいないため	
	㊺	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			
	㊻	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・研修会があれば参加。職員同士でも確認し合っている。	
	㊼	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○	・今後話し合って行きたい。	